

Sun Secure Global Desktop 4.41 リ リースノート

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-5401-10
2008 年 7 月, Revision 01

このマニュアルに関するコメントの送付先: <http://docs.sun.com/app/docs/form/comments>

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許 (<http://www.sun.com/patents> を参照)、あるいは米国およびその他の国において追加または申請中の特許を含んでいることがあります、それらに限定されるものではありません。

本書およびそれに付属する製品は、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社およびそのライセンサ (該当する場合) の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、JavaScript、SunSolve、JavaServer、JSP、JDK、JRE、Sun Ray、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Adobe は、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは OPEN LOOK GUI を実装する、あるいは米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約書に適合する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに ix

1. 新機能および変更点 1

version 4.41 の新機能 1

SGD サーバーをセキュリティー保護するための新コマンド 1

キオスクモードアプリケーションのプルダウンヘッダー 2

サービスタグのサポート 3

Active Directory 認証のログフィルタ 3

クライアント証明書なしの Active Directory SSL セキュリティー 3

version 4.40 の新機能 4

SGD Administration Console 4

用語の変更 5

属性名の変更 5

My Desktop URL 5

ローミングプロファイルのサポート 6

アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウト 7

ネットワークアドレスを指定するためのネットマスクフィルタ 8

ウィンドウ管理キー 8

Solaris 10 OS Trusted Extensions のサポート 8

パスワードとトークンのグローバル管理 9

サーバー証明書のサブジェクト代替名	9
「タイムゾーンマップファイル」属性	9
Windows ターミナルサービスの Session Directory	10
version 4.31 の新機能	10
X アプリケーションでのオーディオサポート	10
Microsoft Windows Vista でのリモートデスクトップのサポート	11
SSH クライアントの設定	11
version 4.41 での変更点	12
サポートされるプラットフォームの変更	12
SGD サーバーのコマンド行の変更	12
SGD Web サーバーのコンポーネントのバージョン変更	13
JDK のバージョン変更	13
My Desktop リンク	14
tarantella security start および tarantella security stop コマンドの変更	14
tarantella status コマンドの変更	14
アレイ内のセキュア通信の有効化	14
SGD サーバー証明書の交換	15
tarantella array コマンドのパフォーマンス改善	15
version 4.40 での変更点	15
旧クライアントが今後取り除かれることについて	15
ログインと認証の順序	15
サーバー証明書と複数の外部 DNS 名	16
Web サービスの変更	16
認証モデルの変更	16
メソッド名の変更	17
新しい Web サービスオペレーション	18
Document/Literal SOAP メッセージエンコーディング	19
デバイスデータの照会	19

Kerberos キャッシュのフラッシュ	19
tem status コマンド	19
SGD Client はデフォルトで Java テクノロジを前提としない	20
SGD Client はクライアントデバイスの情報をログ記録する	20
名前の変更されたコマンド行引数	21
「Windows NT Domain」属性	21
名前の変更された PDF プリンタ	21
ウィンドウが閉じるときの警告	22
クライアントプロファイルから削除された SOCKS プロキシ	22
管理者の Webtop から削除された管理ツール	22
ログインスクリプトの変更	23
ロケールに応じた入力方式の有効化	23
SGD Client 終了のタイムアウト	23
version 4.31 での変更点	23
Solaris x86 プラットフォームの SecurlD 認証	24
統合モードでの複数の SGD サーバーのサポート	24
アレイルート	24
SGD 起動スクリプト	24
信頼されない初期接続メッセージ	25
2. サポート情報、既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題	27
サポート終了	27
次のリリースにおける、サポートされるプラットフォームの変更	28
既知のバグと問題	30
602423 - Return キーとキーパッド Enter キーの問題	30
6443840 - プロキシサーバーの自動設定スクリプトが失敗する	31
6456278 - root ユーザーで統合モードが動作しない	31
6458111 - 統合モードを使用すると GNOME メインメニューがクラッシュする	31

- 6461864 および 6476661 - GNOME デスクトップで自動ログインモードと統合モードが失敗する 32
- 6476194 - SGD Client 用の KDE デスクトップメニュー項目が表示されない 32
- 6481312 - アップグレードすると使用可能な接続タイプがリセットされる 33
- 6482912 - SGD Client が自動的にインストールされない 33
- 6493374 - 入力方式ウィンドウ内の非 ASCII 文字 34
- 6503530 - Sun Java™ Desktop Systems で「起動」メニューのエントリが表示されない 34
- 6555834 - Java テクノロジがブラウザでは有効になっているが、クライアントデバイスにインストールされていない 35
- 6592560 - Administration Console のオンラインヘルプを HTTPS で使用できない 35
- 6598048 - Windows アプリケーションでカナダ系フランス語用キーボードが正しくマッピングされない 36
- 6609518 - セカンダリサーバーから Administration Console を実行している場合のアレイへの追加 36
- 6610760 - PDF プリンタのカスタム設定が Windows アプリケーションに適用されない 36
- 6611502 - セカンダリサーバーからオブジェクトの作成と変更を行う際のエラー 37
- 6616290 - SGD 負荷分散 JSP 使用時の統合モードの問題 37
- 6618698 - LDAP 認証の使用時に空の Webtop が表示される 37
- 6631991 - SGD 拡張モジュール使用時の高い CPU 使用率 38
- 6634243 - Microsoft Windows Vista のアプリケーションのカラー発色数が 16 ビットに制限される 38
- 6654307 - Active Directory 認証の使用時にログインが遅くなる 38
- 6665330 - MyDesktop を使って表示された JDS セッションから VirtualBox™ ソフトウェアを起動すると、フォントエラーが発生する 39
- 6702234 - SGD サーバー停止時の `tarantella security start` コマンドのエラー 39
- 6711479 - Linux プラットフォームクライアントデバイスでオーディオが使用できない 39

6711001 - SGD サーバーが起動しない	40
6712191 - Active Directory のパスワード有効期限ダイアログの問題	40
6716771 - Windows 2008 アプリケーションでデフォルトプリンタが作成されない	40
Sun Type 7 日本語キーボードの問題	41
「スタート」メニューの項目がアルファベット順に表示されない	41
画面解像度が高い場合に Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションのカラー発色数が 8 ビットに制限される	42
version 4.41 で修正されたバグ	42
version 4.40 で修正されたバグ	48
version 4.31 で修正されたバグ	50
Version 4.41 でのドキュメントの問題	51
「アレイ内のセキュリティ保護された通信用の暗号化方式群の選択」節の修正	51

はじめに

『Sun Secure Global Desktop 4.41 リリースノート』では、このバージョンの Sun Secure Global Desktop (SGD) ソフトウェアのシステム要件、サポート、新機能、および変更点について説明します。このマニュアルはシステム管理者向けに記述されています。

システムコマンドの使用法

このマニュアルには、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの設定といった基本的な UNIX® システムのコマンドや手順に関する情報は記載されていない場合があります。このような情報については、使用しているシステムのマニュアルを参照してください。ただし、それぞれの SGD コマンドに関する情報はこのマニュアルに記載されています。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパースーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパースーパーユーザー	#

表記上の規則

字体*	意味	使用例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、およびディレクトリ名を示します。または、画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	書名、新規語や新規用語、強調する語句を示します。コマンド行の変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『ユーザーガイド』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 ファイルを削除するには、 rm filename と入力します。

*. 使用しているブラウザの設定がこれらの設定と異なっている場合もあります。

関連マニュアル

次の表は、この製品に関するマニュアルの一覧を示しています。オンラインマニュアルは、次のサイトで参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1708.3>

アプリケーション	タイトル	Part Number	形式	ロケーション
インストール	Sun Secure Global Desktop 4.41 インストールガイド	820-5406-10	HTML PDF	オンライン ソフトウェア CD およびオンライン
管理	Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド	820-5410-10	HTML PDF	オンライン
ユーザー	Sun Secure Global Desktop 4.41 ユーザーガイド	820-5412-10	HTML PDF	オンライン

サードパーティーの Web サイト

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。Sun は、そのようなサイトやリソース上に存在する、またはそれらを通じて得られる、あらゆる内容、広告、製品、またはその他の資料を保証するものではなく、それらに対するいかなる責任または義務も負いません。Sun は、そのようなサイトやリソース上に存在する、またはそれらを通じて得られる、それらのあらゆる内容、商品、またはサービスによって、またはそれらの使用に関連して、またはそれらを信頼することによって生じた、実際の損害または損失あるいは主張される損害または損失に対する、いかなる責任または義務も負いません。

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのコメントは、次のアドレスに電子メールでお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの件名には、次に示すマニュアルタイトルと Part Number を含めるようにしてください。

Sun Secure Global Desktop 4.41 リリースノート、Part Number 820-5401-10。

第1章

新機能および変更点

この章では、Sun Secure Global Desktop (SGD) version 4.41、4.40、および 4.31 の新機能および変更点について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 1 ページの「[version 4.41 の新機能](#)」
- 4 ページの「[version 4.40 の新機能](#)」
- 10 ページの「[version 4.31 の新機能](#)」
- 12 ページの「[version 4.41 での変更点](#)」
- 15 ページの「[version 4.40 での変更点](#)」
- 23 ページの「[version 4.31 での変更点](#)」

version 4.41 の新機能

ここでは、SGD version 4.41 リリースの新機能について説明します。

SGD サーバーをセキュリティー保護するための新コマンド

SGD 管理者は、SGD サーバーのセキュリティーを、単一の `tarantella` コマンドを使って自動設定できるようになりました。利用可能になったコマンドは次のとおりです。

- `tarantella security enable` - SGD サーバーをセキュリティー保護します。
- `tarantella security disable` - SGD サーバーのセキュリティー設定を、`tarantella security enable` を実行する前の状態に戻します。

tarantella security enable コマンドは次の設定を実行します。

- サーバー証明書をインストールします
- SGD Web サーバーへの HTTPS 接続を有効にします
- ファイアウォール越えに対応するように SGD サーバーを設定します
- SGD サーバーへの SOAP 接続をセキュリティー保護します
- SGD セキュリティーサービスを有効にします
- SGD サーバーと SGD Web サーバーを再起動します

これらのコマンドには次の制限が適用されます。

- SGD サーバーがアレイに含まれてはいけません。
- SGD サーバー上には SGD の「新規」インストールが存在している必要があります。SGD サーバー上のこのソフトウェアをアップグレードする場合には、これらのコマンドを使用できません。

tarantella security enable および tarantella security disable コマンドの詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

キオスクモードアプリケーションのプルダウン ヘッダー

新しい属性 (`--allowkioskescape`) は、キオスクモードで実行されている Windows アプリケーションおよび X アプリケーションのプルダウンヘッダーを有効にします。

プルダウンヘッダーには、アプリケーションウィンドウを最小化したり閉じたりするためのアイコンが含まれています。

この属性が有効になっている場合にプルダウンヘッダーを表示するには、アプリケーションウィンドウの最上部にマウスを移動します。

プルダウンヘッダーを有効化または無効化するには、Windows アプリケーションまたは X アプリケーションオブジェクトのこの属性を設定します。次に例を示します。

```
$ tarantella object edit \  
--name "o=applications/cn=IndigoProject" --allowkioskescape true
```

注 – 現在のところ、この属性はコマンド行からのみ設定できます。

サービスタグのサポート

SGD version 4.41 には Sun Service Tags のサポートが含まれています。SGD ホスト上に Sun Service Tags ソフトウェアが存在している場合、SGD はインストール時に、新しいサービスタグを自動的に作成および登録します。

サービスタグの登録は `tarantella start` が実行されるたびに試みられますが、いったん成功すると、その後は二度と登録が行われなくなります。つまり、SGD のインストール時に Service Tags ソフトウェアが存在していなくても、あとになって Service Tags ソフトウェアを SGD ホストにインストールすれば、SGD はそのソフトウェアを登録します。

Sun Service Tags の詳細については、

<http://www.sun.com/bigadmin/hubs/connection/tasks/register.jsp> を参照してください。

Active Directory 認証のログフィルタ

新たに追加された `server/ad` ログフィルタを使えば、Active Directory 認証に関するエラーをロギングできます。

たとえば、このログフィルタを使えば、ある Active Directory ユーザーがどうして SGD にログインできないのかを確認できます。

クライアント証明書なしの Active Directory SSL セキュリティー

SGD version 4.41 では、Active Directory サーバーへの接続時に、クライアント証明書を使用せずに Secure Sockets Layer (SSL) セキュリティーを使用できます。これは、クライアント証明書が不要であるか選択可能なオプションではないような環境で、SGD サーバーがセキュリティ要件を満たせることを意味します。

この機能の設定方法の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

version 4.40 の新機能

ここでは、SGD version 4.40 リリースの新機能について説明します。

SGD Administration Console

SGD の管理ツールである Object Manager、Array Manager、Configuration Wizard、および Session Manager は、SGD Administration Console に置き換えられました。SGD Administration Console は Web アプリケーションです。SGD 管理者は Administration Console を使って SGD を設定できます。

Administration Console は、SGD でサポートされている言語、つまり英語、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語にローカライズされます。

Administration Console を使用するには、ブラウザで JavaScript が有効になっている必要があります。

可能な場合は、SGD アレイ内のプライマリサーバーで Administration Console を実行してください。新規オブジェクトの作成やオブジェクトの属性の編集といった一部の操作は、プライマリサーバーで行うことが最適です。プライマリサーバーが稼働していない場合にこれらの操作をセカンダリサーバーで実行すると、変更が適用されません。

注 – SGD のディストリビューションには、Administration Console の Web アーカイブ (WAR) ファイル sgddadmin.war が含まれています。このファイルを使って Administration Console を別の Web アプリケーションサーバーに配備することはできません。

Administration Console は、次のいずれかの方法で起動できます。

- SGD 管理者の Webtop にある Administration Console のリンクをクリックします。
- `http://server.example.com` の SGD Web サーバーの開始画面で、「Sun Secure Global Desktop Administration Console の起動」リンクをクリックします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。
- `http://server.example.com/sgddadmin` にアクセスします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

Administration Console の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

用語の変更

Administration Console では、以前の SGD のリリースとは異なる用語が使用されています。

次の表に、version 4.31 で使用されているいくつかの一般的な用語と、Administration Console で使用されている対応する用語を示します。

SGD Version 4.31	Administration Console
アレイメンバー	SGD サーバー
ブラウザベース Webtop	Webtop
エミュレータセッション	アプリケーションセッション
ENS (Enterprise Naming Scheme)	ローカルリポジトリ
ENS 等価名	ユーザープロファイル
完全修飾名	ユーザーの識別情報
ホスト	アプリケーションサーバー
インテリジェントアレイルーティング	負荷分散グループ
ログイン認証機能	システム認証
ログインプロファイル	ユーザープロファイル
人物オブジェクト	ユーザープロファイルオブジェクト
TFN (Tarantella Federated Naming)	使用されない
Webtop セッション	ユーザーセッション

属性名の変更

Administration Console では、一部の属性の名前が変更されました。『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』には、Administration Console で使用される属性名が、Object Manager および Array Manager で使用されていた以前の属性名とともに記載されています。

My Desktop URL

My Desktop URL (Uniform Resource Locator) を使用すると、ユーザーは Webtop を表示せずにログインして全画面デスクトップを表示できます。

My Desktop URL を使用するには、My Desktop (cn=My Desktop) と呼ばれるアプリケーションオブジェクトがユーザーに割り当てられている必要があります。このオブジェクトは、SGD のインストール時に自動的に作成されます。デフォルトでは、

このオブジェクトは、SGD サーバー上で使用可能なデフォルトのデスクトップアプリケーション (Sun Java Desktop System など) を実行するように設定されています。このオブジェクトは、任意のアプリケーションを実行するように再設定できますが、全画面デスクトップアプリケーションで最適に動作します。ユーザーが別のデスクトップアプリケーションを必要としている場合は、必要に応じて追加の My Desktop オブジェクトを作成することができます。ただし、ユーザーに割り当てる My Desktop アプリケーションは 1 つだけにしてください。

注 – ユーザーには任意の数のアプリケーションを割り当てることができますが、My Desktop URL からアクセスできるのは My Desktop アプリケーションだけです。

My Desktop URL は、<http://server.example.com/sgd/mydesktop> です。ここで、server.example.com は SGD サーバーの名前です。この URL を開くと、SGD のログインページが表示されます。ユーザーがログインすると、デスクトップセッションが表示されます。Web ブラウザは閉じておかまいません。

注 – デスクトップアプリケーションを中断または再開することはできません。ユーザーはデスクトップアプリケーションから通常どおりにログアウトする必要があります。

ローミングプロファイルのサポート

Microsoft Windows クライアントデバイスを使用するユーザーは、ローミングユーザープロファイルを持つことができます。ローミングユーザープロファイルにより、ユーザーがどの Microsoft Windows コンピュータを使用する場合でも、同じ環境が提供されます。Microsoft Windows ユーザーがローミングユーザープロファイルを所有している場合、この環境を実現するために、次のように SGD クライアントプロファイルが自動的に調整されます。

- プロキシサーバー設定などの、ユーザーのクライアントデバイス固有の設定がクライアントデバイス上に格納されます。

デフォルトでは、これは `homedrive\Documents and Settings\username\Local Settings\Application Data\Sun\SSGD\profile.xml` です。

言語設定などのユーザー固有の設定がローミングユーザープロファイルの場所に格納されます。

- 通常、これは `homedrive\Documents and Settings\username\Application Data\Sun\SSGD\profile.xml` です。

注 – この場所には、ユーザーの `hostsvisited` ファイルと `certstore.pem` ファイルも含まれています。

SGD クライアントプロファイルの次の設定が、ユーザーのローミングプロファイルの場所に格納されます。

クライアントプロファイルの設定	ローミングプロファイルのエントリ
ログイン URL	<url>
「スタート」メニューへのアプリケーションの追加	<mode>
自動クライアントログイン	<autologin> <AT>
システムログイン時に接続	<autostart>
接続障害	<reconnect mode> <reconnect_attempts> <reconnect_interval>

アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウト

SGD 管理者は、アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウトを設定できるようになりました。

タイムアウトを設定すると、アプリケーションセッションや Webtop のアクティビティーのない状態が一定期間続いた場合に、ユーザーセッションを中断することができます。タイムアウトは、アレイ内のすべての SGD サーバーに適用されます。

このタイムアウトは、コマンド行からのみ設定できます。Administration Console を使ってタイムアウト値を編集することはできません。

タイムアウトは次のコマンドで設定します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-webtopsessionidletimeout secs
```

ここで、secs はタイムアウト値 (単位は秒) です。

0 に設定すると、アイドル状態のユーザーセッションのタイムアウト機能はオフになります。これは、デフォルト設定です。

次の例では、アクティビティーのない状態が 1800 秒 (30 分) 続くとユーザーセッションは中断されます。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-webtopsessionidletimeout 1800
```

ネットワークアドレスを指定するためのネットマスクフィルタ

次の属性を設定する際に、ネットマスクフィルタを指定できるようになりました。

- 外部 DNS 名 (--server-dns-external)
- アレイルート (--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes)

ネットマスクフィルタの形式は v.w.x.y/z です。以前の「ワイルドカード」タイプのフィルタも引き続きサポートされています。

次の例では、ネットマスクフィルタを使って外部 DNS 名を指定します。

```
$ tarantella config edit --server-dns-external \  
"192.168.55.0/24:boston.indigo-insurance.com"
```

ウィンドウ管理キー

次のオブジェクトタイプのために、新しい「ウィンドウ管理キー」(--remotewindowkeys) 属性を使用できます。

- Windows アプリケーション
- X アプリケーション

この属性を使用すると、ウィンドウ管理を処理するキーボードショートカットを、リモートセッションに送信することも、ローカルで実行することもできます。この設定が有効なのは、「ウィンドウタイプ」が「キオスク」モードに設定されているアプリケーションだけです。

この属性が有効になっているときに「キオスク」モードを終了するには、キーシーケンス Alt-Ctrl-Shift-スペースを使用します。これにより、ローカルデスクトップ上でキオスクセッションがアイコン化されます。

SGD Windows ターミナルサービスセッションで、Windows キーがデフォルトで有効になっています。SGD ターミナルサービスクライアント (ttatsc) の -windowskey オプションのデフォルト設定は、on です。このオプションは、Windows アプリケーションオブジェクトの「プロトコルの引数」(--protoargs) 属性を使って変更できます。

Solaris 10 OS Trusted Extensions のサポート

SGD は Solaris 10 OS Trusted Extensions 上で動作しますが、次の制限事項があります。

- SGD はラベル付きゾーンにインストールする必要があります。SGD を Solaris 10 OS Trusted Extensions にインストールする方法の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 インストールガイド』を参照してください。
- UNIX プラットフォームのクライアントデバイスでは、クライアントドライブマッピングはサポートされません [6610354]。
- UNIX プラットフォームのアプリケーションでは、オーディオはサポートされません [6610352]。
- Solaris 10 OS Trusted Extensions クライアントプラットフォームでは、統合モードはサポートされません [6610371]。
- Solaris 10 OS Trusted Extensions クライアントプラットフォームでは、アプリケーションのキオスクモード表示で最適なユーザー操作性が得られません [6594795]。

パスワードとトークンのグローバル管理

Administration Console を使用すると、SGD のすべてのユーザーに関してパスワードとトークンをグローバルに管理できます。

パスワードとトークンをユーザー識別情報またはユーザープロファイルによって管理できるようになりました。以前の **Object Manager** 管理ツールでは、ユーザープロファイルによるパスワードとトークンの管理だけがサポートされていました。

サーバー証明書のサブジェクト代替名

SGD サーバーに複数の DNS 名がある場合 (ファイアウォールの内側と外側で異なる名前を使って認識されている場合など)、証明書発行要求 (CSR) を生成するときに、「サブジェクト代替名」として追加の DNS 名を指定できます。これにより、複数の DNS 名をサーバー証明書に関連付けることができます。

`tarantella security certrequest` コマンドで CSR を生成する際に、サブジェクト代替名の入力を求めるプロンプトが表示されるようになりました。

証明書のサブジェクト代替名は、`tarantella security certinfo` コマンドを使って表示できます。

「タイムゾーンマップファイル」属性

新しい「タイムゾーンマップファイル」属性 (`--xpe-tzmapfile`) が使用可能になりました。

この属性を使用すると、UNIX クライアントデバイスと Microsoft Windows アプリケーションサーバーのタイムゾーン名との間のマッピングを含むファイルを指定できます。属性は、アレイ内のすべての SGD サーバーに適用されます。

Windows ターミナルサービスの Session Directory

SGD version 4.40.917 以降では、Microsoft Windows Server 2003 上で実行されている Windows Terminal Services セッションの Session Directory がサポートされます。

Session Directory を SGD の代わりに使えば、Windows アプリケーションのセッションの再開性を処理できます。Session Directory は、どのユーザーがどの Windows アプリケーションサーバー上でどのセッションを実行しているのかを追跡するデータベースです。

SGD ユーザーは Session Directory を使用することで、Windows セッションに自動的に再接続できます。

version 4.31 の新機能

ここでは、SGD version 4.31 リリースの新機能について説明します。

X アプリケーションでのオーディオサポート

SGD 管理者は、SGD を使ってアクセスする X アプリケーションのオーディオを有効にできるようになりました。

X アプリケーションでオーディオを聞くには、次の条件を満たす必要があります。

- クライアントデバイスでオーディオを再生する必要があります。
- SGD に接続するときに SGD Client を使用する必要があります。
- SGD 拡張モジュールの UNIX オーディオモジュールがアプリケーションサーバーにイントールされ、稼働している必要があります。
- X アプリケーションからオーディオを出力するときに、Open Sound System (OSS) を使用する必要があります。システムが Advanced Linux Sound Architecture (ALSA) を使用している場合、カーネル内で ALSA OSS エミュレーションモジュールを有効にすることが必要な場合があります。
- Administration Console で SGD UNIX オーディオサービスが有効になっている必要があります。デフォルトでは、このサービスは無効になっています。

UNIX オーディオモジュールには OSS オーディオドライバエミュレータが含まれます。オーディオドライバエミュレータは、SGD 拡張モジュールの UNIX オーディオモジュールをインストールするときに、カーネルにインストールされます。

注 – オーディオモジュールにはオーディオドライバエミュレータが含まれるため、アプリケーションサーバー自体にサウンドカードは不要です。

一部の X アプリケーションは、オーディオ出力に `/dev/audio` または `/dev/dsp` デバイスを使用するようにハードコードされています。X アプリケーションオブジェクトの新しい属性「オーディオリダイレクトライブラリ」(`--unixaudiopreload`) によって SGD オーディオライブラリが有効になり、X アプリケーションで強制的に SGD オーディオデバイスが使用されるようになります。

Microsoft Windows Vista でのリモートデスクトップのサポート

Microsoft Windows Vista のリモートデスクトップ機能では、Microsoft リモートデスクトッププロトコル (RDP) を使ってコンピュータにアクセスすることができます。たとえば、SGD とリモートデスクトップを使って、オフィスの外部のユーザーにオフィスの PC へのアクセスを許可できるようになりました。完全な Windows デスクトップセッションだけがサポートされます。

SGD 拡張モジュールを Microsoft Windows Vista クライアントデバイスにインストールして、クライアントドライバマッピングをサポートすることも可能です。高度な負荷分散およびシームレスウィンドウはサポートされません。

SSH クライアントの設定

次のオブジェクトタイプのために、新しい「SSH Arguments」(`--ssharguments`) 属性を使用できます。

- X アプリケーション
- 文字型アプリケーション
- 3270 アプリケーション
- 5250 アプリケーション

この属性を使用すると、アプリケーションの接続方法が SSH の場合に、SSH クライアントのコマンド行引数を指定できます。

version 4.41 での変更点

ここでは、SGD version 4.40 リリース以降に変更された点について説明します。

サポートされるプラットフォームの変更

SGD でサポートされるプラットフォームが、次のように変更されました。

- **SGD サーバー:** Fedora Linux 8 が、SGD サーバーのインストールプラットフォームとしてサポートされるようになりました。Fedora Linux 7 はこのリリースではサポートされません。
- **SGD 拡張モジュール:** Fedora Linux 8 と Windows Server 2008 が、SGD 拡張モジュールのインストールプラットフォームとしてサポートされるようになりました。Fedora Linux 7 はこのリリースではサポートされません。
- **クライアントプラットフォーム:** Fedora Linux 8 と Red Hat Desktop version 5 が、クライアントプラットフォームとしてサポートされるようになりました。Fedora Linux 7 と Red Hat Desktop version 4 はこのリリースではサポートされません。Mozilla 1.5 ブラウザはこのリリースではサポートされません。

このリリースでサポートされるプラットフォームの詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 インストールガイド』を参照してください。

SGD サーバーのコマンド行の変更

SGD サーバーと SGD Web サーバーの制御に使用されるコマンドが変更されました。

SGD Web サーバーの停止、起動、および再起動を行うための次のコマンドが、非推奨になりました。

- `tarantella webserver start`
- `tarantella webserver stop`
- `tarantella webserver restart`

これらのコマンドは、`tarantella start`、`tarantella stop`、および `tarantella restart` コマンドのサブコマンドとして実装されました。

以前のリリースでは、`tarantella start`、`tarantella stop`、および `tarantella restart` コマンドは SGD サーバーを制御していました。これらのコマンドはデフォルトで、SGD サーバーと SGD Web サーバーの両方を制御するようになりました。

tarantella start、tarantella stop、および tarantella restart コマンドの新しいサブコマンドを使えば、SGD サーバー、または SGD Web サーバーの 1 つ以上のコンポーネントのいずれかを起動、停止、または再起動を選択できます。

次の表に、コマンド行の主な変更点をまとめます。

version 4.40 のコマンド	version 4.41 のコマンド
tarantella webserver start	tarantella start webserver
tarantella webserver stop	tarantella stop webserver
tarantella webserver restart	tarantella restart webserver
tarantella start	tarantella start sgd
tarantella stop	tarantella stop sgd
tarantella restart	tarantella restart sgd

これらの改訂されたコマンドの詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

SGD Web サーバーのコンポーネントのバージョン変更

SGD Web サーバーは Apache の version 2 を使用するようになりました。次の表に、SGD Web サーバーのコンポーネントのバージョン情報を示します。

コンポーネント	バージョン
Apache HTTP サーバー	2.2.8
OpenSSL	0.9.8g
mod_jk	1.2.25
Apache Jakarta Tomcat	5.0.28
Apache Axis	1.2

JDK のバージョン変更

SGD のインストールに、JDK™ version 1.6.0_05 が含まれるようになりました。

My Desktop リンク

SGD Web サーバーの開始画面に My Desktop リンクが含まれるようになりました。SGD Web サーバーの開始画面のアドレスは `http://server.example.com` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

My Desktop リンクを使用すると、ユーザーは Webtop を表示せずにログインして全画面デスクトップを表示できます。詳細については、[5 ページの「My Desktop URL」](#) を参照してください。

My Desktop リンクを使用することは、My Desktop URL を指定することの代替手段です。My Desktop URL は `http://server.example.com/sgd/mydesktop` です。

tarantella security start および tarantella security stop コマンドの変更

`tarantella security start` および `tarantella security stop` コマンドで `--array` および `--server` オプションが非推奨になりました。

これは、`tarantella security start` および `tarantella security stop` コマンドが、コマンドの実行元となる SGD サーバーのセキュリティーを設定するためだけに使用できることを意味します。

tarantella status コマンドの変更

アレイに問題がある場合に、アレイの設定に関するより詳しい情報が `tarantella status` コマンドから返されるようになりました。この情報を使えば、アレイの問題を診断および修正できます。

アレイ内のセキュア通信の有効化

以前のリリースでは、あるアレイのアレイ内セキュア通信の有効化は、そのアレイに参加するセカンダリ SGD サーバー上で `tarantella array join` コマンドを実行することによって行われていました。

SGD 4.41 リリースでは、アレイ内セキュア通信を使用する場合は、アレイ内のプライマリ SGD サーバーから `tarantella array join` コマンドを実行する必要があります。

SGD サーバー証明書の交換

SGD 4.41 リリースでは、現在の SGD サーバー証明書に影響を与えずに新しい証明書発行要求 (CSR) を生成できます。

これにより、元の証明書の有効期限が切れようとしているなどの理由により、SGD サーバー証明書を交換することができます。

`tarantella security certrequest` コマンドを使って CSR を生成した場合、非公開キーが `/opt/tarantella/var/tsp/key.pending.pem` ファイル内に格納されるようになりました。

`tarantella array` コマンドのパフォーマンス改善

`tarantella array` コマンドのパフォーマンスが改善されました。SGD サーバーのアレイの設定が、以前のリリースに比べ、よりすばやいプロセスになりました。

version 4.40 での変更点

ここでは、SGD version 4.31 リリース以降に変更された点について説明します。

旧クライアントが今後取り除かれることについて

SGD version 4.31 は、Java テクノロジクライアント、SGD Native Client、および旧 Webtop が含まれる最後のリリースとなりました。4.40 リリースには、これらのクライアントは含まれていません。

この変更の結果、この SGD リリースでは、アプリケーションを Web ブラウザウィンドウに表示するように設定することはできません。「ウィンドウタイプ」属性 (`--displayusing`) の `webtop` オプションと `newbrowser` オプションは削除されました。

ログインと認証の順序

サービス拒否攻撃を防ぐセキュリティ機能として、ユーザーが SGD にログインするときのイベントの順序が次のように変更されました。

- SGD version 4.31 では、ログイン画面が表示される前に SGD Client が起動されていました。
- SGD version 4.40 では、ユーザーがログイン画面で正常に認証されたあとで SGD Client が起動されます。

SGD Client が起動したことは、デスクトップのタスクバーのアイコンで示されます。SGD へのログインの詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 インストールガイド』を参照してください。

SGD への接続をクライアントの IP アドレスに基づいて拒否することはできなくなりました。

サーバー証明書と複数の外部 DNS 名

以前のリリースでは、SGD サーバーの外部 DNS 名と X.509 証明書を関連付けるために `--tarantella-config-ssldaemon-certificates` 属性が使用されていました。

この属性はサポートされなくなりました。このリリースでは、CSR を生成する際に、外部 DNS 名をサブジェクト代替名として指定できます。

詳細については、[9 ページの「サーバー証明書のサブジェクト代替名」](#)を参照してください。

Web サービスの変更

このリリースでは、Web サービスに次の変更が適用されています。

- 認証モデルの変更
- メソッド名の変更
- 新しい Web サービスオペレーション
- Document/Literal SOAP メッセージエンコーディング
- デバイスデータの照会

認証モデルの変更

4.31 リリースでは、ユーザーセッションを認証するために `startSession` メソッドと `authenticateSession` メソッドが使用されていました。

4.40 リリースでは、ユーザーセッションの作成と認証が単一のメソッド `authenticate` に組み込まれました。

startSession メソッドと authenticateSession メソッドは、4.40 リリースでは使用できません。

メソッド名の変更

4.31 リリースには、オーバーロードメソッドがいくつかありました。これらのメソッドは、そのパラメータの数とタイプで区別されていました。4.40 リリースでは、このようなオーバーロードメソッドの名前がすべて変更されました。また、4.40 リリースでは、setSessionIdentity メソッドの必須パラメータも変更されました。

次の表に、このリリースで変更されたメソッド名を示します。

インタフェース名	Version 4.31 でのメソッド名	Version 4.40 でのメソッド名
ITarantellaDatastore	modify(String, String, String[])	modifyReplace (String, String, String[])
ITarantellaEvent	adminSendClientSideMessage (String, String, String, String, String)	adminBroadcastClientSideMessage (String, String, String, String, String)
ITarantellaExternalAuth	setSessionIdentity (String, String)	setSessionIdentity (String, String, String)
ITarantellaPrint	printJobs (String)	printAllJobs (String)
ITarantellaWebtopSession	authenticateSession (String, String, String)	authenticate (String, String, String, String)
ITarantellaWebtopSession	authenticateSession (String, String, String, Item[], Item[])	authenticateExt (String, String, String, String, Item[], Item[])
ITarantellaWebtopSession	setTCCConfiguration (String, String, String, String, String, Item[])	setTCCConfigurationOverrides (String, String, String, String, String, Item[])
ITarantellaWebtopSession	startSession (*)	相当するものではありません

新しい Web サービスオペレーション

次の表に、新しい Web サービスオペレーションを示します。

インタフェース名	メソッド名	説明
ITarantellaDatastore	deleteObjects	SGD データストアからいくつかのオブジェクトを削除します。
	searchEnd	指定された検索のサーバーリソースを解放します。
	searchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	searchStart	データストア検索を開始して結果のサブセットを返します。
ITarantellaEmulatorSession	adminCount	検索によって返される、一致するアプリケーションセッションの数を数えます。
	adminSearchEnd	指定された検索のサーバーリソースを解放します。
	adminSearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	adminSearchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。
	endSessions	複数のアプリケーションセッションを終了します。
ITarantellaPrint	adminCount	検索によって返される、一致する印刷ジョブの数を数えます。
	adminSearchEnd	指定された検索のサーバーリソースを解放します。
	adminSearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	adminSearchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。
ITarantellaWebtopSession	associateTCC	ユーザーセッションを既存の SGD Client 接続に関連付けます。
	authenticate	ユーザーセッションを認証します。
	authenticateExt	ユーザーセッションを認証します。
	createView	既存のユーザーセッションの新しいビューを作成します。
	adminEndSessions	複数のユーザーセッションを終了します。
	adminCount	検索によって返される、一致するユーザーセッションの数を数えます。
	adminSearchEnd	指定された検索のサーバーリソースを解放します。
	adminSearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	adminSearchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。
ITarantellaUtility	searchEnd	指定された検索のサーバーリソースを解放します。
	searchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	searchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。

Document/Literal SOAP メッセージエンコーディング

SGD Web サービスに使用される SOAP メッセージエンコーディング形式が、RPC/Encoded から Document/Literal に変更されました。

SGD Web サービスの一覧を表示するには、
`http://server.example.com/axis/services` にアクセスします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。wsdl リンクをクリックすると、SGD Web サービスの Web Services Description Language (WSDL) リストを表示できます。

このページには、RPC/Encoded 形式の Web サービスの WSDL リストが引き続き含まれています。ユーザー独自のアプリケーションを開発する場合、RPC/Encoded 形式は使用しないでください。この形式の Web サービスは将来のリリースで推奨されなくなります。

デバイスデータの照会

`adminLookupSession` オペレーションでデバイス情報が返されるようになりました。このオペレーションを使えば、`--scottarawdevicedata` および `--scottadeviceaccessibledata` デバイスデータ属性のクエリーを行えます。

返されたデバイス情報は、診断ツールとして使用できます。

Kerberos キャッシュのフラッシュ

`tarantella cache` コマンドの新しい設定を使用すると、SGD サーバーの現在の Kerberos 設定を更新できます。

新しいオプション `krb5config` は次のように使用されます。

```
$ tarantella cache --flush krb5config
```

この設定を使用すると、SGD サーバーを再起動しなくても、サーバーの Kerberos 設定を更新できます。この機能は Active Directory 認証だけに使用されます。

tem status コマンド

SGD 拡張モジュールのユーザーには、新しいコマンドが使用可能になりました。

tem status コマンドは、SGD アレイの負荷分散、UNIX プラットフォームオーディオ、およびクライアントドライブマッピングサービスに関するステータス情報を提供します。このコマンドは、インストールされているモジュールの一覧を表示し、それらが実行中かどうかを示します。

SGD Client はデフォルトで Java テクノロジを前提としない

SGD Client は、Microsoft Windows クライアントプラットフォームでは tcc コマンド、UNIX、Linux、または Mac OS X クライアントプラットフォームでは ttatcc コマンドを使用して、コマンド行から起動できます。

このリリースでは、SGD Client をコマンド行から起動した場合や統合モードで起動した場合、SGD Client はデフォルトで、クライアントデバイスで Java テクノロジが有効になっていないと見なします。tcc コマンドと ttatcc コマンドの新しい引数 -use-java を使用すると、SGD Client は Java テクノロジを使用するように設定されます。

以前のリリースでは、SGD Client はデフォルトで、Java テクノロジが有効になっていると見なしていました。tcc コマンドと ttatcc コマンドの -no-java 引数を使用すると、この動作を無効にすることができました。現在、この引数は推奨されなくなりました。

tcc コマンドと ttatcc コマンドに使用できる引数については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

SGD Client はクライアントデバイスの情報をログ記録する

SGD Client はクライアントデバイスの情報をログ記録するようになりました。印刷、シリアルポート、クライアントドライブマッピング、オーディオおよびスマートカードの各デバイスについて、デバイスアクセスデータとエラーメッセージがログに記録されます。

クライアントデバイスの情報は SGD Client のログファイルに書き込まれ、Webtop の「詳細な診断」ページに表示されます。

名前の変更されたコマンド行引数

いくつかの属性の名称が変更され、属性名がより短くなりました。これにより、コマンド行でこれらの属性を入力する際の誤りを防ぐことができます。次の表に、変更された属性名を示します。

Version 4.31 での属性名	Version 4.40 での属性名
--tarantella-config-login-thirdparty-searchens	--login-thirdparty-ens
--tarantella-config-login-thirdparty-allownonens	--login-thirdparty-nonens
--tarantella-config-ldap-thirdpartyldapcandidate-useens	--login-ldap-thirdparty-ens
--tarantella-config-ldap-thirdpartyldapcandidate-useprofile	--login-ldap-thirdparty-profile
--tarantella-config-xpeconfig-timezonemapfile	--xpe-tzmapfile

「Windows NT Domain」属性

「Windows NT Domain」属性は、「ドメイン名」という名称に変更されました。この属性は、アプリケーションサーバーの認証プロセスに使用するドメインを指定します。

この属性を持つオブジェクトは、次のとおりです。

- アプリケーションサーバー
- Windows アプリケーション
- ユーザープロファイル

名前の変更された PDF プリンタ

SGD PDF プリンタの名称が、次の表のように変更されました。

リリース 4.31 でのプリンタ名	リリース 4.40 でのプリンタ名
Universal PDF	Universal PDF プリンタ
Print to Local PDF File	Universal PDF ビューア

ウィンドウが閉じるときの警告

「ウィンドウタイプ」が「独立ウィンドウ」に設定されているアプリケーションオブジェクトの場合、アプリケーションウィンドウを閉じるときに警告ダイアログが表示されるようになりました。このダイアログでは、アプリケーションセッションを終了するかどうかの確認が求められます。

クライアントプロファイルから削除された SOCKS プロキシ

SGD Client プロファイルを使って SOCKS プロキシサーバーを設定することはできなくなりました。

アレイルート機能を使用すれば、引き続き SOCKS プロキシサーバーを設定できます。次のコマンドを使用します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes \  
"192.168.10.*:CTSOCKS:taurus.indigo-insurance.com:8080"
```

この設定では、IP アドレスが 192.168.10 で始まるクライアントは、TCP ポート 8080 上で SOCKS プロキシサーバー taurus.indigo-insurance.com を使って接続します。

管理者の Webtop から削除された管理ツール

Object Manager、Array Manager、Session Manager、および Configuration Wizard の各管理ツールは、管理者の Webtop に表示されなくなりました。これらの管理ツールは、Administration Console と呼ばれるブラウザベースの管理ツールに置き換えられました。詳細については、[4 ページの「SGD Administration Console」](#)を参照してください。

Configuration Wizard は、Web アプリケーションのサンプルとして、SGD ディストリビューションに引き続き含まれています。Configuration Wizard を表示するには、<http://server.example.com/sgd/admin/configmgr/index.jsp> にアクセスします。ここで、server.example.com は SGD サーバーの名前です。

Session Manager は、Web アプリケーションのサンプルとして、SGD ディストリビューションに引き続き含まれています。Session Manager を表示するには、<http://server.example.com/sgd/admin/sessmgr/index.jsp> にアクセスします。ここで、server.example.com は SGD サーバーの名前です。

ログインスクリプトの変更

/opt/tarantella/var/serverresources/expect ディレクトリ内のログインスクリプトが合理化されました。スクリプトの名前の変更や、スクリプトの統合が行われました。

アプリケーションサーバーの認証に SecurID を使用している場合、オブジェクトでは securid/unix.exp スクリプトの代わりに securid.exp スクリプトが使用されます。下位互換性のために、securid/unix.exp から新しい securid.exp スクリプトへのシンボリックリンクが用意されました。

ロケールに応じた入力方式の有効化

入力方式 (IM) はプログラムまたはオペレーティングシステムコンポーネントであり、キーボードにない文字や記号をユーザーが入力できるようにします。Microsoft Windows プラットフォームでは、IM は Input Method Editor (IME) と呼ばれます。

アプリケーションの実行中、TTA_PreferredLocale、TTA_HostLocale、または LANG (アプリケーション環境によって上書き) のいずれかの環境変数が IM を必要とするロケールに設定されている場合、SGD は IM を有効にします。IM を必要とするロケールは、vars.exp ログインスクリプトで定義されている IM_localeList 変数によって制御されます。

デフォルトでは、IM はすべての日本語、韓国語、および中国語ロケールで有効になっています。ほかのロケールで IM を有効にするには、vars.exp を編集して、IM_localeList 変数にロケールを追加する必要があります。

SGD Client 終了のタイムアウト

SGD Client が突然終了したためにアプリケーションが中止される場合、次のタイムアウト時間は 20 分延長されます。

- ユーザーセッション再開機能のタイムアウト - ユーザーセッション中に再開できるように設定されているアプリケーションの場合
- 一般的な再開機能のタイムアウト - 一般的に再開できるように設定されているアプリケーションの場合

version 4.31 での変更点

ここでは、SGD version 4.30 リリース以降に変更された点について説明します。

Solaris x86 プラットフォームの SecurID 認証

version 4.31 では、Solaris x86 プラットフォームに SGD をインストールするときに、SecurID 認証を使用できます。

統合モードでの複数の SGD サーバーのサポート

version 4.30 では、SGD Client が統合モードのときに接続できる SGD サーバーは 1 つだけでした。version 4.31 では、複数の SGD サーバーのときでも統合モードを使用できます。デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューには、各 SGD サーバーのログインリンクが表示されます。

アレイルート

SGD のアレイルート機能を使用すれば、サーバー側に SOCKS プロキシサーバーを設定できます。アレイルートは次のコマンドで設定します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes route...
```

アレイルートが拡張されて、直接接続タイプを設定できるようになりました。プロキシサーバーを使用しなくても接続できるようにクライアントを指定するときは、接続タイプとして CTDIRECT を指定します。

アレイルート設定の例を、次に示します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes \  
"192.168.5.*:CTDIRECT:" \  
"192.168.10.*:CTSOCKS:taurus.indigo-insurance.com:8080"
```

この設定のときは、IP アドレスが 192.168.5 で始まるクライアントで直接接続が許可されます。IP アドレスが 192.168.10 で始まるクライアントは、TCP ポート 8080 上で SOCKS プロキシサーバー taurus.indigo-insurance.com を使って接続します。

SGD 起動スクリプト

version 4.31 では、SGD サーバーが再起動するときに SGD サービスを停止して起動するための起動スクリプトが、名前が変更されて再構築されています。

*Tarantella および *TarantellaWebserver スクリプトは、

*sun.com-sgd-base という名前の 1 つのスクリプトに置き換えられています。
SGD 拡張モジュールのための *tem スクリプトは、*sun.com-sgd-em という名前
になっています。

信頼されない初期接続メッセージ

ユーザーが最初に SGD サーバーに接続するときに「信頼されない初期接続」警告
メッセージが表示されますが、このメッセージが拡張されています。ユーザーがこの
メッセージからサーバーのセキュリティー証明書を見ることができるようになりました。

第2章

サポート情報、既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題

この章では、SGD のサポート情報について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [27 ページの「サポート終了」](#)
- [30 ページの「既知のバグと問題」](#)
- [42 ページの「version 4.41 で修正されたバグ」](#)
- [48 ページの「version 4.40 で修正されたバグ」](#)
- [50 ページの「version 4.31 で修正されたバグ」](#)
- [51 ページの「Version 4.41 でのドキュメントの問題」](#)

サポート終了

次の表に、SGD 製品のサポート終了日付を示します。

ソフトウェアとバージョン	サポート終了	限定的サポート終了	サービス終了
Sun Secure Global Desktop Software 4.40	2010 年 2 月 6 日	2014 年 2 月 6 日	2014 年 2 月 6 日
Sun Secure Global Desktop Software 4.31	2009 年 5 月 19 日	2013 年 5 月 19 日	2013 年 5 月 19 日
Sun Secure Global Desktop Software 4.3	2009 年 4 月 29 日	2013 年 4 月 29 日	2013 年 4 月 29 日
Sun Secure Global Desktop Software 4.2	2008 年 11 月 8 日	2012 年 11 月 8 日	2012 年 11 月 8 日
Secure Global Desktop Enterprise Edition 4.1			2007 年 3 月 31 日
Secure Global Desktop Enterprise Edition 4.0			2007 年 3 月 31 日
Secure Global Desktop Software Appliance 4.0			2007 年 3 月 31 日

ソフトウェアとバージョン	サポート終了	限定的サポート終了	サービス終了
Secure Global Desktop Enterprise Edition 3.44*			2007 年 12 月 31 日
Secure Global Desktop Enterprise Edition 3.42			2007 年 3 月 31 日
Tarantella Enterprise 3 (TASP を含む)			2007 年 3 月 31 日

*, 日本語のみ

Sun のサービス終了 (EOSL) の方針に関する詳細は、
<http://www.sun.com/service/eosl/> を参照してください。

有効なサポート契約をお持ちのお客様は、最新バージョンの SGD に無料でアップグレードできます。

次のリリースにおける、サポートされるプラットフォームの変更

SGD version 4.41 に続くリリースにおける、サポートされるプラットフォームの変更点は、次のとおりです。

- **SGD サーバー:** OpenSolaris は、このリリースでは SGD サーバーのインストールプラットフォームとしてサポートされます。Solaris OS 8、Solaris OS 9、Red Hat Enterprise Linux 4、Fedora Linux 8、および SUSE Linux Enterprise Server 9 はサポートされません。

次の表に、次のリリースでサポートされるインストールプラットフォームを示します。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
SPARC プラットフォーム上の Solaris™ Operating System (Solaris OS)	10、10 Trusted Extensions
x86 プラットフォーム上の Solaris OS	10、10 Trusted Extensions
x86 プラットフォーム上の OpenSolaris	最新バージョン
Red Hat Enterprise Linux (Intel x86 32 ビット)	5
SUSE Linux Enterprise Server (Intel x86 32 ビット)	10

- **SGD 拡張モジュール:** OpenSolaris は、このリリースでは SGD 拡張モジュールのインストールプラットフォームとしてサポートされます。Windows 2000 Server、Red Hat Enterprise Linux 4、Fedora Linux 8、SUSE Linux Enterprise Server 9、および SUSE Linux Enterprise Server 10 はサポートされません。

次の表は、次のリリースの SGD 拡張モジュールでサポートされるインストールプラットフォームの一覧です。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
Microsoft Windows	Windows Server 2008 Windows Server 2003 Microsoft Windows XP Professional Microsoft Windows Vista Business Microsoft Windows Vista Ultimate
SPARC プラットフォーム上の Solaris OS	8、9、10、10 Trusted Extensions
x86 プラットフォーム上の Solaris OS	10、10 Trusted Extensions
x86 プラットフォーム上の OpenSolaris	最新バージョン
Red Hat Enterprise Linux (Intel x86 32 ビット)	5

- クライアントプラットフォーム: OpenSolaris は、このリリースでサポートされるクライアントプラットフォームです。Solaris 8 OS、Solaris 9 OS、Microsoft Windows 2000 Professional、Fedora Linux 8、および SUSE Linux Enterprise Desktop 10 は、このリリースではサポートされません。Internet Explorer 6.0 ブラウザはサポートされません。

次の表は、次のリリースの SGD Client でサポートされるクライアントプラットフォームの一覧です。また、サポートされるブラウザも含まれています。

サポートされるクライアントプラットフォーム	サポートされるブラウザ
Microsoft Windows Vista	Internet Explorer 7.0 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降
Microsoft Windows XP Professional	Internet Explorer 7.0 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降
x86 プラットフォーム上の OpenSolaris (最新バージョン)	Mozilla Firefox 2.0 以降
SPARC プラットフォーム上の Solaris 10 OS	Mozilla Firefox 2.0 以降
x86 プラットフォーム上の Solaris 10 OS	Mozilla Firefox 2.0 以降
x86 プラットフォーム上の Solaris 10 OS Trusted Extensions	Mozilla Firefox 2.0 以降
Mac OS X 10.4 以降、10.5 以降	Safari 2.0 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降
Red Hat Desktop (最新バージョン)	Mozilla Firefox 2.0 以降
Ubuntu (最新バージョン)	Mozilla Firefox 2.0 以降

既知のバグと問題

ここでは、SGD version 4.41 に関する既知のバグと問題の一覧を示します。

602423 - Return キーとキーパッド Enter キーの問題

問題: SGD の X エミュレータと文字型エミュレータで、ユーザーのクライアントキーボードの **Return** キーとキーパッドの **Enter** キーを区別できません。

原因: 既知の問題点です。

解決策: デフォルトでは、SGD Client は、X アプリケーションセッションと文字型アプリケーションセッションの両方で、キーパッド **Enter** キーを **Return** キーにマップします。設定を追加することで、この動作を変更することができます。

文字型アプリケーションセッションでのキーパッド **Enter** キーの動作を変更するには、使用する文字型アプリケーションオブジェクト用のキーマップを設定して (--keymap)、KPENTER のマッピングを追加する必要があります。次に例を示します。

```
KPENTER="hello"
```

Windows または *X* アプリケーションセッションでのキーパッド **Enter** キーの動作を変更するには、使用する *X* キーマップ (xuniversal.txt など) を変更して、KP_Enter キーのマッピングを追加する必要があります。次に例を示します。

```
92 KP_Enter KP_Enter NoSymbol NoSymbol 0x801c
```



注意 - *X* キーマップはグローバルなユーザーリソースなので、この変更によってそのユーザーのすべてのアプリケーションが影響を受ける可能性があります。これらのアプリケーションに KP_Enter を処理しないものがある場合は、*X/Windows* アプリケーションのベンダーに対して問い合わせが必要になることがあります。

6443840 - プロキシサーバーの自動設定スクリプトが失敗する

問題: プロキシサーバーの自動設定スクリプトには、接続しようとするプロキシサーバーのリストを指定できます。リストの最初のプロキシサーバーに接続できない場合は、ブラウザは接続できるサーバーが見つかるまでほかのプロキシサーバーに順番に接続しようとします。

Microsoft Internet Explorer と Sun Java Plug-in ツール version 1.5.0 を同時に使用すると、リストの最初のプロキシサーバーのみが使用されます。そのプロキシサーバーを使用できない場合、接続は失敗します。

原因: 既知の問題点です。

解決策: Sun Java Plug-in ツール version 1.6.0 を使用してください。

6456278 - root ユーザーで統合モードが動作しない

問題: Solaris 10 x86 プラットフォームでは、root ユーザーでのログイン時に統合モードを有効にすると、アプリケーションが Solaris 10 の「起動」メニューに表示されません。次の警告が表示されることがあります。

```
gnome-vfs-modules-WARNING **:Error writing vfolder configuration file
"//.gnome2/vfolders/applications.vfolder-info":File not found.
```

原因: GNOME Virtual File System (VFS) の既知の問題です。

解決策: 現在のところ、解決策はありません。

6458111 - 統合モードを使用すると GNOME メインメニューがクラッシュする

問題: SUSE Linux Enterprise Server 10 を実行しているクライアントデバイスでは、SGD Client を統合モードで使用すると GNOME メインメニューがクラッシュします。クラッシュは、通常、ログイン時またはログアウト時に発生します。

原因: SUSE Linux Enterprise Server 10 の GNOME メインメニューアプレットの既知の問題です (Novell バグ参照 186555)。

解決策: SUSE Linux Enterprise Server 10 の gnome-main-menu.rpm パッケージの最新バージョンをインストールしてください。

あるいは、「最近使用したアプリケーション」機能を無効にすると、GNOME メインメニューの安定性が向上します。クライアントデバイス上で、次のコマンドを実行します。

```
$ gconftool-2 --set --type=list --list-type=int \  
/desktop/gnome/applications/main-menu/lock-down/showable_file_types [0,2]  
$ pkill main-menu  
$ pkill application-browser
```

6461864 および 6476661 - GNOME デスクトップで自動ログインモードと統合モードが失敗する

問題: 自動クライアントログインモードまたは統合モードを有効にしたあと、GNOME デスクトップにログインしても SGD Client が自動的に起動せず、SGD にログインしても Webtop コンテンツに合わせて「スタート」メニューが更新されません。この問題は、SUSE Linux Enterprise Server 9 と Red Hat Enterprise Linux 4 に影響します。

原因: .menu ファイル内のディレクトリは監視されないため、「スタート」メニューに加えた変更は検出されません。

解決策: 回避策として `pkill gnome-panel` コマンドを実行し、GNOME パネルを再起動して新しいメニュー情報を取得します。

注 - メニューを変更するたびに、`pkill gnome-panel` コマンドを実行してメニューを更新する必要があります。

6476194 - SGD Client 用の KDE デスクトップメニュー項目が表示されない

問題: SUSE Linux Enterprise Server 10 で、SGD Client のショートカットが KDE デスクトップメニューに表示されません。

原因: KDE メニューシステムの SUSE 固有の設定では、メニューに含まれるアプリケーションエントリが 1 つだけの場合は、メニューではなくその単一のアプリケーションがメインメニューに表示されます。メニューエントリがサブメニューの場合、サブメニューは一切表示されません。このため、統合モードの SGD Client 用の「ログイン」メニューは表示されません。

解決策: 回避策として、次の行を `$HOME/.kde/share/config/kickerrc` ファイルの `[menus]` セクションに追加します。

```
ReduceMenuDepth=false
```

その後、次のコマンドを KDE パネルに実行して、変更をただちに反映させます。

```
# dcop kicker kicker restart
```

以降のすべての KDE セッションで、この設定が自動的に使用されます。

6481312 - アップグレードすると使用可能な接続タイプがリセットされる

問題: version 4.40 にアップグレードすると、セキュア接続のみを受け付けるように設定されたサーバーが標準接続とセキュア接続を受け入れるようになります。

原因: 既知の問題点です。

解決策: セキュア接続だけを受け入れるようにサーバーを再設定します。
Administration Console で、「Secure Global Desktop サーバー」 SGD サーバーの「セキュリティ」タブを表示し、「接続タイプ」フィールドの「標準」チェックボックスの選択を解除します。または、次のコマンドを実行します。

```
$ tarantella config edit --security-connectiontypes ssl
```

6482912 - SGD Client が自動的にインストールされない

問題: Microsoft Windows Vista プラットフォームで Internet Explorer 7 を使用している場合、SGD Client のダウンロードおよびインストールは自動的に実行されません。手動で SGD Client をインストールできます。また、Firefox などの別のブラウザを使用すれば、自動的にインストールできます。

原因: Internet Explorer にはプロテクトモードがあり、このモードのために SGD Client の自動ダウンロードおよびインストールが妨げられます。

解決策: Internet Explorer の「セキュリティ設定」の「信頼済みサイト」リストに SGD サーバーを追加します。

6493374 - 入力方式ウィンドウ内の非 ASCII 文字

問題: 簡体字中国語および繁体字中国語のユーザーは、Solaris OS アプリケーションサーバーでアプリケーションを実行中に、入力方式の候補ウィンドウとステータスウィンドウに非 ASCII 文字を表示できません。これは、Solaris 8 OS、9 OS、10 OS、および 10 OS update 1 プラットフォームに影響します。

原因: SGD サーバーのフォントパス設定が欠落しています。

解決策: アプリケーションサーバーが Solaris 10 OS または Solaris 10 OS update 1 上で稼働している場合は、次のいずれかを実行します。

- SPARC プラットフォームの場合は、パッチ 120410、120412、および 120414 をインストールします。
- x86 プラットフォームの場合は、パッチ 120411、120413、および 12041 をインストールします。
- Solaris 10 OS update 2 以降にアップグレードします。

アプリケーションサーバーが Solaris 8 OS または Solaris 9 OS 上で稼働している場合、次のいずれかを行います。

- 簡体字中国語。Administration Console の「アプリケーション」「起動」タブで、「環境変数」を「LANG=zh;LC_ALL=zh」と設定します。
- 繁体字中国語。Administration Console の「アプリケーション」「起動」タブで、「環境変数」を「LANG=zh_TW;LC_ALL=zh_TW」と設定します。

6503530 - Sun Java™ Desktop Systems で「起動」メニューのエントリが表示されない

問題: Sun Java Desktop Systems (JDS) で統合モードを有効に設定したとき、SGD の「起動」メニューエントリが作成されません。「起動」メニューエントリは、デスクトップからログアウトしてから再度ログインすると追加されます。

原因: GNOME パネルの既知の問題です。

解決策: 次のパッチをインストールします。

- 119906 - SPARC テクノロジプラットフォームの Solaris OS の場合
- 119907 - x86 プラットフォームの Solaris OS の場合

これらのパッチは、Solaris 10 OS update 5 リリースに含まれています。

解決方法は、デスクトップからログアウトしてから再度ログインすることです。

6555834 - Java テクノロジーがブラウザでは有効になっているが、クライアントデバイスにインストールされていない

問題: Java テクノロジーが Web ブラウザの設定で有効になっているにもかかわらず、Sun Java Plug-in ツールがクライアントデバイスにインストールされていない場合、SGD Webtop は表示されません。ログインプロセスはスプラッシュ画面で停止します。

原因: SGD は、Web ブラウザの設定を使って、Java テクノロジーを使用するかどうかを決定します。

解決策: Sun Java Plug-in ツールをインストールし、Web ブラウザのプラグインディレクトリから JVM の格納場所へのシンボリックリンクを作成します。詳細については、Web ブラウザのマニュアルを参照してください。

6592560 - Administration Console のオンラインヘルプを HTTPS で使用できない

問題: SGD Web サーバーへの HTTPS 接続が有効になっている場合、Administration Console のオンラインヘルプは使用不可になります。

原因: Administration Console は、JavaHelp™ ソフトウェアを使ってオンラインヘルプを表示します。HTTPS 接続を介して JavaHelp を実行するには、追加の設定作業が必要になります。

解決策: SGD Web サーバーの証明書の署名に使用されている CA 証明書を、JDK™ ソフトウェアのキーストアにインポートします。Java ソフトウェアの `keytool` アプリケーションを次のように使用します。

```
$ keytool -import \  
-keystore /opt/tarantella/bin/jdk-version/jre/lib/security/cacerts \  
-storepass changeit -file /opt/tarantella/var/tsp/ca.pem
```

ここで、*changeit* はキーストアのパスワード、*jdk-version* は SGD サーバーにインストールされている JDK のバージョンです。

`ca.pem` ファイルに複数の証明書が含まれている場合は、各証明書を個別に追加してください。

6598048 - Windows アプリケーションでカナダ系フランス語用キーボードが正しくマッピングされない

問題: カナダ系フランス語 (旧バージョン) のキー配列を Windows アプリケーションで使用する場合に、一部のフランス語文字が正しく印刷されません。

原因: カナダ系フランス語 (旧バージョン) のキー配列に関する既知の問題です。

解決策: 現在のところ、有効な解決策はありません。現在のところ、互換性のあるキーマップファイルは SGD で提供されていません。

6609518 - セカンダリサーバーから Administration Console を実行している場合のアレイへの追加

問題: 既存のセカンダリサーバーから Administration Console を実行している場合、SGD アレイに新しいセカンダリサーバーを追加できません。

原因: このリリースでは、複数のセカンダリサーバーの資格情報を提供することはできません。

解決策: プライマリサーバー上、またはアレイに追加するサーバー上で、Administration Console を実行します。

6610760 - PDF プリンタのカスタム設定が Windows アプリケーションに適用されない

問題: Windows アプリケーションから印刷する場合に、PDF プリンタのカスタム設定が適用されません。

たとえば、組織単位 (OU) オブジェクトに対して SGD の「Universal PDF プリンタ」プリンタと「Universal PDF ビューア」プリンタを使用可能にします。その後、親オブジェクトの設定を上書きして、組織単位内のあるユーザーに対して「Universal PDF プリンタ」プリンタと「Universal PDF ビューア」プリンタを使用不可にします。この場合、このユーザーにはプリンタのカスタム設定は継承されません。

原因: PDF プリンタ設定の継承に関する既知の問題です。

解決策: 現在のところ、有効な解決策はありません。可能な場合は、ユーザーレベルではなく組織単位レベルまたは組織レベルで PDF プリンタの設定を行なってください。

6611502 - セカンダリサーバーからオブジェクトの作成と変更を行う際のエラー

問題: Administration Console をセカンダリ SGD サーバー上で実行している場合にオブジェクトの作成や変更を行うと、次のエラーメッセージが返されます。「オブジェクトを作成できませんでした。」

原因: オブジェクトの作成や変更は正常に行われますが、複製されたデータがプライマリサーバーから戻ってくる前に、Administration Console が処理を続行します。

解決策: 数秒待ってから操作を繰り返します。

6616290 - SGD 負荷分散 JSP 使用時の統合モードの問題

問題: SGD 負荷分散 JSP が使用されているアレイで、統合モードが正しく機能しません。SGD 負荷分散 JSP `swcd.jsp` は、ユーザーセッションの負荷分散を行うために使用されます。

原因: 既知の問題点です。

解決策: 現在のところ、既知の解決策はありません。負荷分散 JSP を使用している場合には、SGD Client を統合モードで実行しないでください。

6618698 - LDAP 認証の使用時に空の Webtop が表示される

問題: ユーザーが LDAP 認証機構を使ってログインすると、空の Webtop が表示されます。

原因: ユーザーオブジェクトが次の LDAP 検索フィルタに一致しない場合、アプリケーションの LDAP 割り当てが失敗します。

```
(!(objectclass=user)(objectclass=person)(uid=*))
```

たとえば、オブジェクトクラスが `inetOrgPerson` であり、かつ `uid` 属性を持たないような LDAP オブジェクトでは、アプリケーションの LDAP 割り当てが失敗します。

解決策: LDAP ディレクトリで、SGD ユーザーのオブジェクトクラスが `person` または `user` になっていることを確認します。あるいは、SGD ユーザーを記述する LDAP オブジェクトに、`uid` 属性を割り当てます。

6631991 - SGD 拡張モジュール使用時の高い CPU 使用率

問題: Microsoft Windows アプリケーションサーバー上で SGD 拡張モジュールを使用している場合に、高い CPU 使用率が報告されることがあります。CPU 使用率が高くなるプロセスとしては、ttaswm.exe や ttatdm.exe などが挙げられます。

原因: 既知の問題点です。

解決策: 現在のところ、有効な解決策はありません。

6634243 - Microsoft Windows Vista のアプリケーションのカラー発色数が 16 ビットに制限される

問題: Microsoft Windows Vista の全画面デスクトップセッションで、クライアントデバイス上での表示カラー発色数が 16 ビットに制限されます。

原因: SGD を使って Microsoft Windows Vista のデスクトップセッションを表示する場合の既知の問題です。

解決策: 現在のところ、有効な解決策はありません。

6654307 - Active Directory 認証の使用時にログインが遅くなる

問題: Active Directory (AD) 認証機構を大規模 AD ドメイン内で使用すると、SGD へのログインが遅くなる可能性があります。

原因: 既知の問題点です。SGD Active Directory 認証機構はユーザー検索時に、常にもっとも近いドメインコントローラを使用するとは限りません。

解決策: 現在のところ、既知の解決策はありません。

6665330 - MyDesktop を使って表示された JDS セッションから VirtualBox™ ソフトウェアを起動すると、フォントエラーが発生する

問題: Solaris 10 OS 上で、MyDesktop を使って表示された JDS デスクトップセッションから VirtualBox ソフトウェアを起動すると、フォントエラーが報告され、表示の問題が発生します。この問題は、Xsession.jds を MyDesktop アプリケーションオブジェクトのアプリケーションコマンドとして使用する場合に発生します。

原因: SGD X サーバー上で使用不可能なフォント。

解決策: JDS デスクトップセッションから VirtualBox ソフトウェアを起動する際に、`-fn` オプションを使って有効なフォントを指定します。あるいは、不足しているフォントを SGD サーバーにインストールします。SGD でのフォントの使用に関する詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

6702234 - SGD サーバー停止時の `tarantella security start` コマンドのエラー

問題: SGD サーバーが停止している場合に `tarantella security start` コマンドを使ってセキュリティーサービスを起動すると、エラーメッセージが返されます。

原因: SGD サーバーが稼働していない場合、`tarantella security start` コマンドは使用できません。

解決策: `tarantella security start` コマンドを使用する前に、まず SGD サーバーを起動します。

6711479 - Linux プラットフォームクライアントデバイスでオーディオが使用できない

問題: Linux プラットフォームクライアントデバイスの使用時に、SGD オーディオが使用できません。

原因: クライアントデバイス上で ESD (Enlightened Sound Daemon) が実行されていません。ESD は通常、クライアントデバイスのデスクトップセッションが開始される際に起動されます。それ以外の場合は、要求時に ESD ライブラリによってデーモンが自動生成される必要があります。

解決策: ESD 設定ファイル `/etc/esd.conf` 内で自動生成が有効になっていることを確認します。正しい設定は、`auto_spawn=1` です。

6711001 - SGD サーバーが起動しない

問題: SGD サーバーが起動しません。

原因: SGD サーバー上に、使用可能なディスク容量がありません。

解決策: SGD サーバーを起動する前に、十分なディスク容量が使用可能であることを確認します。ディスク容量の最小要件については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 インストールガイド』を参照してください。

6712191 - Active Directory のパスワード有効期限ダイアログの問題

問題: Active Directory 認証に使用されるパスワード有効期限ダイアログが正しく機能しません。ユーザーが自身のパスワードを変更できません。さらに、ユーザーがドメイン名を入力しなかった場合、SGD へのログインが失敗することがあります。

原因: SGD サーバーによって使用される Kerberos 設定ファイル内に、default_realm エントリが存在していません。default_realm の設定は、Kerberos パスワード有効期限機構によって使用されます。さらに、ドメイン名を入力しないでログインするユーザーについて、Active Directory デフォルトドメイン (--login-ad-default-domain) 属性が設定されていない場合に、SGD は default_realm を使用します。

解決策: SGD サーバーによって使用される Kerberos 設定ファイルを編集し、default_realm に対して有効なエントリが確実に存在するようにします。Kerberos 設定ファイルの詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

6716771 - Windows 2008 アプリケーションでデフォルトプリンタが作成されない

問題: Windows 2008 Server アプリケーションサーバー上にホストされたアプリケーションから UNIX、Linux、または Mac OS X プラットフォームのクライアントデバイスに印刷する場合に、Windows アプリケーションの印刷ダイアログにデフォルトクライアントプリンタが表示されません。

原因: SGD によって使用されるデフォルトプリンタドライバは、QMS 1060 Print System です。このプリンタドライバは Windows 2008 Server に含まれていません。

解決策: 次のいずれかを実行します。

- Windows 2008 Server アプリケーションサーバーに QMS 1060 Print System プリンタドライバをインストールします。

- SGD サーバー上でグローバルプリンタ設定ファイルを編集し、異なるデフォルトプリンタドライバを指定します。グローバルプリンタ設定ファイルは、`/opt/tarantella/etc/data/default.printerinfo.txt` です。
- クライアントデバイス上でユーザー固有のプリンタ設定ファイルを編集し、異なるデフォルトプリンタドライバを指定します。ユーザー固有のプリンタ設定ファイルは、`$HOME/.tarantella/printerinfo.txt` です。

UNIX、Linux、および Mac OS X プラットフォームクライアントデバイス用にプリンタドライバを設定する方法の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』を参照してください。

Sun Type 7 日本語キーボードの問題

問題: Sun Type 7 日本語キーボードのユーザーは SGD で文字を正しく入力できません。

原因: クライアントデバイス上に Solaris OS キーテーブルがありません。

解決策: 適切なパッチをインストールして、クライアントデバイスにキーテーブルをインストールします。

プラットフォーム	パッチ
SPARC プラットフォーム上の Solaris 10 OS	121868
SPARC プラットフォーム上の Solaris 9 OS	113764
SPARC プラットフォーム上の Solaris 8 OS	111075
x86 プラットフォーム上の Solaris 10 OS	121869
x86 プラットフォーム上の Solaris 9 OS	113765
x86 プラットフォーム上の Solaris 8 OS	114539

「スタート」メニューの項目がアルファベット順に表示されない

問題: Microsoft Windows クライアントデバイス上で統合モードの SGD Client を使用中に、「スタート」メニューのエントリがアルファベット順に表示されません。

原因: Windows の機能では、新しい項目はメニューの末尾に追加され、アルファベット順に並び替えられないため、このようになります。

解決策: 詳細については、Microsoft KB article 177482 を参照してください。

画面解像度が高い場合に Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションのカラー発色数が 8 ビットに制限される

問題: Microsoft Windows Server 2003 アプリケーションで画面解像度が高い場合に、クライアントデバイス上での表示カラー発色数が 8 ビットに制限されます。この問題は、画面解像度が 1600 x 1200 ピクセルよりも高い場合に発生します。

原因: Windows Server 2003 ターミナルサービスセッションに関する既知の問題です。

解決策: カラー発色数を 16 ビットに増やす方法の詳細については、Microsoft Hotfix 942610を参照してください。

version 4.41 で修正されたバグ

次の表に、4.41 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。

参照	説明
6489154	アプリケーションがシームレスウィンドウモードで実行されているときに、ウィンドウフォーカスの問題が発生する。
6498460	画面のサイズ変更後にテキストが正しく表示されない。文字が重なり合ったり、間隔が空きすぎたりする。
6506571	Solaris 上での SGD 拡張モジュールのアップグレード時に、client.prf ファイルのマージが失敗する。
6508202	日本語で em-size/normal-width が変更される。
6524429	Windows XP Home クライアントが、Windows 2000 のクライアントアクセスライセンス (CAL) ではなく、組み込みライセンスを取得する。
6531922	リモートアプリケーションの「閉じる」ボタンをクリックしたあと、シームレスウィンドウが起動しない。
6532001	Active Directory: PKI のパスワードが期限切れになっても、新しいパスワードの入力が要求されない。
6536434	SGD では韓国語キーボードが正しく動作しない。
6557536	SGD アプリケーションウィンドウの起動後の初期フォーカスが、誤解を招く位置にある。
6557568	入力フォーカスが失われることによる、予期しないフォーカス変更。

参照	説明
6568484	シームレスウィンドウを使用しているアプリケーションの名前が日本語で表示されないが、全画面を使用すると名前が正しく表示される。
6570049	ユーザーの DN に「/」が含まれていると、空の Webtop が表示される。
6572217	Administration Console で Webtop のヒント属性が見つからない。
6589194	CPU 負荷ベースの負荷分散アルゴリズムが、偏った結果を生成する。
6591022	Num Lock および Caps Lock 状態の問題に対する SGD 4.31.905 パッチで、Num Lock の状態が不安定になる。
6591516	ページの切り替えが Internet Explorer で動作しない。
6592699	ギリシャ語キーボード使用時に、アクセント文字、トノス、およびディアリティカが正しく機能しない。
6594537	ファイアウォール越えモードの、改善されたユーザー体験と警告メッセージ。
6600335	韓国語 USB キーボードが搭載された WinXP クライアント上で Windows ターミナルサービスアプリケーションを実行していると、「Hangul」キーと「Hanja」キーが機能しなくなる。
6609001	停止しているセカンダリサーバーを Administration Console を使って切り離すことができない。
6612935	SGD Client の GNOME パネルに空のログアウトメニュー項目が表示される。
6615864	「割り当ての追加」ページの、セキュリティ保護されたコンテンツとされていないコンテンツ。
6615864	HTTPS 経由で Administration Console にアクセスすると、Internet Explorer に警告メッセージが表示される。
6616296	X ベースの 5250 または 3270 アプリケーションからローカルの Windows Notepad へのコピー&ペーストが機能しない。
6617987	逆コンマを含むユーザーオブジェクトを作成する際に、動作がおかしくなる。
6618516	ファイル記述子の制限に達すると、ttaauxserv が致命的エラーを報告して終了する。
6620254	ポルトガル語キーボードの Num Lock とアキュートアクセント文字が、予期したとおりに機能しない。
6620268	旧 Webtop 属性がまだ使用可能になっている。
6621456	プロファイル内の「セッション開始時にプロキシ設定を確立する」の有効化が機能しない。
6621911	Sun Ray™ 上で、es_MX ISO8859-1 に含まれるアクセント記号付きの文字が正しくエミュレートされない。
6623775	Active Directory サーバーからのクライアント証明書を使用しないで Active Directory クエリーをセキュリティ保護する必要がある。
6624044	server/webtop/* ログングフィルタが正しくない。

参照	説明
6624122	Trusted Extensions 環境で非 root ユーザーとして動作する Windows アプリケーションで、コピー&ペーストが機能しない。
6624795	シームレスウィンドウ使用時の、最小化された Internet Explorer 上のタイトルが正しくない。
6625786	Windows デスクトップ経由で特定の URL にアクセスすると、セッションが切断される。
6629782	あいまいなログインダイアログと SecurID ダイアログがローカライズされていない。
6630832	Solaris OS 8 で PDF 印刷が失敗する。
6632864	アップグレード時の 4.40 データストア再編成でエラーが発生する。
6633342	SWIFT アプリケーションでマップされたドライブにアクセスすると、アクセス拒否エラーが発生する。
6633363	Mac OS X 10.5.1 で、第 3 層の認証ダイアログがキーボード入力を受け付けない。
6633389	アプリケーショングループの循環リンクが正しくアップグレードされない。
6634373	Active Directory のエラーをより簡潔にロギングする。
6634689	4.40 データストア再編成での dc ツリーの処理方法が、あまり適切ではない。
6635919	ttatcc コマンドで -no-browser オプションが必要である。
6636787	SOAP のセキュリティ保護に関するドキュメントが不明瞭である。
6638874	パケットの部分的な受信によって SGD Client がクラッシュする。
6639470	「セキュリティ警告」アラート通知が有効になっていると、新しいオブジェクトを作成できない。
6639655	X サーバーのセキュリティ上の脆弱性。
6640141	「割り当て済みのユーザープロファイル」タブ上での、アプリケーション組織内のある OU に対する LDAP 検索によって発生する例外。
6641356	拡張可能な LDAP 検索フィルタが正しく検証されない。
6641475	デフォルトで、LDAP ユーザー属性 isMemberOf が reverseAttributes リスト内に存在しているべきである。
6641538	cache --flush krb5config に関するドキュメントに、その影響範囲に関する情報を含めるべきである。
6643772	My Desktop セッションを再開できない。
6646817	printertypes.txt ファイルを更新する必要がある。
6649163	Windows セッションが Sun Ray クライアントによって取得されると、SGD が「ホワイト画面」を残す。
6650200	「安全でない可能性のある接続」警告ダイアログが、セキュリティ保護されていない環境内のユーザーに繰り返し表示される。

参照	説明
6650334	OU 上の LDAP プロファイルによる、グループに基づく ENS 内での LDAP の「ミラーリング」に問題がある。
6651582	-証明書要求時に出力に n オプションが表示される。
6653001	Trusted Extensions Sun Ray クライアントでペーストアクションを取り消すと、SGD Client がクラッシュする。
6653019	Windows セッションを中断すると、ttatssc が CPU リソースを 100% 消費する。
6653024	2 回目の変更時には、プロファイル内の認証トークン情報が更新されない。
6654565	JDK の変更により、keytool コマンドが変更された。
6655852	Ubuntu で Extra Visual Effects が有効になっていると、SGD Client が失敗する。
6658738	アプリケーションセッションの負荷分散が、ファイアウォールに適したものでない。
6659812	「証明書の詳細の表示」メッセージボックス内で、エスケープキーとウィンドウの「閉じる」ボタンが機能しない。
6661505	Active Directory の Global Catalog とドメインコントローラのホスト名のソートが正しくありません。
6661507	「Failed to Find Site Objects」という Active Directory エラーをダウングレードすべきである。
6663148	SGD サーバーの安定性の問題。
6663754	2 つ目の Webtop エントリ My Desktop2 が存在していると、My Desktop 機能が失敗する。
6664301	古いプライマリサーバーが使用可能になると、新しいプライマリサーバーが予想外に切り離される。
6667259	SGD Client はデフォルトで、印刷時に一時停止される。
6668963	アレイ内セキュア通信の設定が異なっている 2 つのサーバーをアレイに追加する際の問題。
6670774	アレイ内セキュア通信が有効になっているサーバーのアレイへの追加が、特定のシナリオで失敗する。
6670843	アレイの make_primary オプションが Administration Console で動作しない。
6671528	Internet Explorer 6 を使用している Windows クライアントで、Java の不在が検出されない。
6673906	アレイのリマスター後に、ライセンスの複製に関する問題が発生する。
6678939	Windows セッションでネットワークプリンタが表示されない。
6679810	CommandExecutionFailed または Error 7 のドキュメントで、アプリケーションサーバーの /tmp フォルダのアクセス権についてもふれるべきである。

参照	説明
6679845	Windows ターミナルサービスセッションで Sun Ray DTU ID が必要。
6680413	Solaris パッチ 119060-38 で、ttatssc のコアダンプが実行される。
6682124	tarantella cache --flush による LDAP 設定キャッシュのフラッシュが機能しない。
6685521	4.31 からのアップグレード後に、SGD Webtop へのログインが失敗する。
6686727	Administration Console: 「新規オブジェクト」ポップアップにスクロールバーを付ける必要がある。
6689236	My Desktop 機能で負荷分散 JSP を使用する方法。
6689502	Administration Console でのアプリケーションコマンド行引数の入力。
6690301	SGD Webtop から OpenOffice を使用すると、SGD Client がクラッシュする。
6692376	SGD Client が CPU を 100% 消費し、OS X Leopard をクライアントデバイスとして実行する Windows アプリケーションの承認に失敗する。
6692620	デフォルトの Kerberos 資格を使用していると、Active Directory 検出タイムアウトへの割り込みを行えない。
6693487	Office 2007 を使って CDM ドライブへの書き込みを行えない。
6693489	フランス語のロケールで、無効なセッション Cookie による JSP エラーが発生する。
6693496	ログイン直後の「情報」->「詳細な診断」の表示が失敗する。
6693498	Solaris 10u4 で、SGD Client Motif ダイアログに大きなアイコンが表示される。
6693505	Solaris 10u4 デスクトップ上で、Microsoft Word 2007 の最大化が正しく行われない。
6693508	Solaris 10u4 デスクトップ上のドイツ語ロケールで、Microsoft Word 2007 が起動を要求する。
6693516	Solaris 10u4 上の GIMP で、ウィンドウを閉じる操作が正しく処理されない。
6693972	廃止された JRE 1.3 を使って接続を行うと、Internet Explorer ブラウザがハングアップする。
6694481	ou= にマルチバイト文字が含まれる場合に LDAP 検索を制限すると、Active Directory への LDAP 認証によるユーザー認証が失敗する。
6695371	2 つのプロトコルエンジン間でコピー&ペーストを行うと、ttaxpe がクラッシュする。
6695876	ログ内の負荷分散のエラーメッセージが、誤解を招く表現になっている。
6697034	ローカライズされた文字入力で、「作成」ボタンがアクティブでないままになっている。
6698552	特定のシナリオで X アプリケーションの起動が失敗し、「未知のターミナル」エラーが発生する。

参照	説明
6698730	SGD アプリケーションのショートカットが有効でなくなっても、ユーザーに対して何のエラーも表示されない。
6699329	tarantella security fingerprint コマンドが、間違ったフィンガプリントを表示する。
6699873	Windows セッションで、トルコ語キーボードの特定のキーが動作しない。
6700449	Windows アプリケーションのプロトコル引数 (-dir) が、cmd.exe で機能しない。
6701438	2X ロードバランサが SGD で機能しない。
6702069	シームレス表示方式が、Windows 2008 上のアプリケーションで正しく機能しない。
6702822	Solaris Trusted Extensions: キオスクモード領域は、Trusted Extensions ストライプ領域の下に表示されるべきである。
6703066	Solaris Trusted Extensions: 増分選択をコピー&ペーストすると、XSelectInput 呼び出し内で Xerror が発生する。
6704749	印刷ジョブのサイズが、Webtop とコマンド行で一致しない。
6704925	portuguesebrazilian_abnt2 キーボードの問題。
6705544	CN に括弧が含まれているユーザーのターミナルサービス CAL が、SGD によって再利用されない。
6707001	フランス語の翻訳でアポストロフィーが抜けている。
6709037	シームレスウィンドウのセッションでツールヒントの上にマウスを置くと、SGD Client がクラッシュする。
6710067	Unicode から keysym へのテーブルが、EuroSign の Unicode を EuroSign の keysym にマップする。
6710510	他のアレイメンバーが停止していると、Solaris アレイ操作の応答に長い時間がかかる。
6710580	印刷ステータス: opt.jsp で NULL ポインタ例外が発生する可能性がある。
6710927	Sun Ray クライアントのスタートメニューに、ログインメニュー項目の一部が表示されない。
6712258	ローカライズ版で、InvalidSessionCookie エラー文字列の情報が欠落している。
6712649	統合クライアントログインが、StringIndexOutOfBounds 例外で失敗する。
6712721	すべての言語で、ローカライズされた認証エラーメッセージ内に文字化けした文字が表示される。
6712851	中国語の入力。モード切り替えキーから Henkan_mode keysym が生成されるべきである。
6714996	Active Directory 認証により、次の Global Catalog へのフェイルオーバーが実行されない。

version 4.40 で修正されたバグ

次の表に、4.40.917 リリースで修正された追加バグの一覧を示します。

参照	説明
6499184	Windows 2003 Session Directory のサポートが必要。
6613733	SPARC プラットフォームの Solaris OS で、SGD 印刷時にコアダンプが発生する。
6624122	Solaris 10 OS Trusted Extensions 上の SGD で、Windows アプリケーションのコピー&ペーストに関する問題が発生する。
6632816	Mac OS X クライアントプラットフォームの問題
6632864, 6633389, 6646187	SGD version 4.40.907 へのアップグレード後にデータストアの問題が発生する。
6638874	ネットワークパケットの断片化により、SGD Client が予想外に終了する。
6639655	SGD X サーバーのセキュリティの脆弱性。
6641522	数字で始まるアプリケーションサーバー DNS 名を指定すると、Administration Console エラーが発生する。
6642603	SGD 拡張モジュールのアップグレードが失敗する。
6644678, 6645784	標準以外のインストールディレクトリを使用すると、アップグレードの問題が発生する。

次の表に、4.40.907 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。

参照	説明
2144612	Active Directory 認証により、次のグローバルカタログサーバーへのフェイルオーバーが実行されない。
2147536	不正なパスワードを入力すると、ttaxpe コマンドが終了しない。
2148699	複数の外部 DNS 名があると CDM が失敗する。
2148700	X アプリケーションで特定のウィンドウが開かれると、SGD Client が異常終了する。
2148811	ターミナルサービスのプリンタ設定が、Zebra バーコードプリンタには永続的に設定されない。
2149630	SSGD 4.30.915 では韓国語キーボードが正しく動作しない。
2150849	シリアル COM ポートのリダイレクトに関する断続的な問題。

参照	説明
2151274	フランス語ロケールのウィンドウでアクセント記号付きの文字が正しく表示されない。
6469935	SGD Client は、ホスト名を証明書の <code>subjectAltName</code> 拡張内の DNS 項目と照合させることができるべき。
6478585	Java 仮想マシンの SSL キーおよび証明書ストアがアップグレード時に破棄される。
6520742	プライマリ SGD サーバーで <code>tarantella security peerca --show</code> コマンドが失敗する。
6525004	SGD Client におけるクライアントデバイスのアクセスロギングの拡張。
6527507	Web サービスの障害に関するエラー報告の改善。
6532425	<code>tta_tem</code> が標準以外のディレクトリにインストールされている場合、UNIX CDM が失敗する。
6532764	複数の LDAP サーバーが設定されている場合、LDAP フェイルオーバーがシームレスにならない。
6537643	ダイアログの表示中にアプリケーションが終了すると SGD Client がクラッシュする。
6541478	Sun Ray Client でローカルオーディオの再生中に、SGD からオーディオを再生すると SGD セッションがハングアップする。
6541914	状況によっては Windows Vista で CDM が動作しない。
6542533	MacOS X 10.4.9 の Safari で、起動したアプリケーションが Webtop に表示されない。
6544350	アレイで Webtop の印刷コントロールが不安定になる。
6546840	SUSE Linux Enterprise Server 9 で統合モードが有効にならない。
6547337	<code>ttatcc</code> コマンドの <code>-preferredlanguage</code> オプションを使用すると、ページが適切なロケールで開かない。
6550172	負荷分散グループでオフライン状態のサーバーを選択した場合、起動に失敗する。
6552038	<code>ttaxpe</code> デバッグロギングの改善。
6553252	SGD Client がセグメント例外を発生して終了し、Electric Fence アプリケーションによって終了される。
6558691	プライマリが停止した場合やアレイが分離された場合にセカンダリのライセンスが削除される。
6561306	ssh 引数を更新する前に ssh バージョンを確認する必要がある。
6563481	<code>execpe</code> ログファイルのエラーメッセージの改善。
6571826	3270 オブジェクトと 5250 オブジェクトを作成するためのコマンド行が、すべての引数を正しく受け取らない。

参照	説明
6574469 6574471	Solaris プラットフォームと Linux プラットフォームで、Java Platform, Standard Edition を 1.6.0_01 以降 (サードパーティー) に更新する必要がある。
6583316	SGD クライアントの CDM をクライアントごとに無効にすることはできない。
6583333	ssshelper が <code>setuid</code> の場合は <code>ssh</code> の起動が失敗し、SGD ユーザーにホームディレクトリが割り当てられない。
6597576	Linux プラットフォームの SGD 拡張モジュールは、デフォルト以外のパスにはインストールされない。
6598686	複数のロケールでアプリケーションタイトルが正しく表示されない。
6601084	統合モードでは、「Start In」ボックスで指定されたフォルダは無効である。

version 4.31 で修正されたバグ

次の表に、4.31 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。

参照	説明
2140625	UNIX プラットフォーム上のクライアントのタイムゾーン リダイレクトが修正された。
2145026	ライセンス情報をすべてのセカンダリにコピーするには再起動する必要がある。
2145602	X アプリケーションの起動が遅かったりタイムアウトになったりする。 <code>procs.exp</code> スクリプトの入力方式の処理に問題がある可能性がある。
2145932	SGD セッションに戻るときに Windows キーの機能が抑制される。
2146043	クライアントドライブマッピングを使用しているときに、大きなファイルを上書きできない。
2146285	Tomcat に障害が発生し、Webtop にアイコンが表示されない。
6440254	プロキシサーバー認証ダイアログにレلم情報が表示されない。
6443192	Solaris OS で <code>pkgadd</code> コマンドを使ってアップグレードすると、数百のファイルが競合していることが報告される。
6443840	SGD Client がプロキシサーバー設定 (PAC) ファイルからのプロキシフェイルオーバーを認識しない。
6474180	SGD Web サーバーの <code>HARD_SERVER_LIMIT</code> が 1024 に増えている。
6480225	統合モードのときに、アプリケーションが UNIX クライアントプラットフォームの再開に失敗する。
6494450	クライアントドライブマッピングが 2G バイトを超えるファイルに対応できない。

参照	説明
6499639	UNIX および Linux プラットフォーム上でクライアントドライブマッピングを使用しているときに、再帰的なディレクトリ要求を行うと、セグメント例外が発生する。
6503627	xfrbelgian.txt キーボードマップファイルに間違いがある。
6518152	Microsoft Windows Vista クライアントデバイスで統合モードを使用するときに、「スタート」メニューが更新されない。
6518638	tarantella print cancel コマンドを実行すると、選択した印刷ジョブだけでなくすべての印刷ジョブが削除される。
6525384	XRDP で SGD を使用できない。
6528037	ホストを含むグループが Webtop に誤って配備されると、Webtop に「ページが見つかりません」というメッセージが表示される。
6506222	アプリケーションを起動するときに、ユーザーの .Xdefaults ファイルが使用されない。

Version 4.41 でのドキュメントの問題

ここでは、4.41 リリースのドキュメントに関する既知の問題の一覧を示します。

「アレイ内のセキュリティー保護された通信用の暗号化方式群の選択」節の修正

『Sun Secure Global Desktop 4.41 管理者ガイド』の 58 ページの「アレイ内のセキュリティー保護された通信用の暗号化方式群の選択」節で、次の文が間違っています。

「デフォルトでは、SGD は RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA 暗号化方式群を使用します。」

この文は次のように訂正されます。

「デフォルトでは、SGD は TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA 暗号化方式群を使用します。」

